

# The 21st Annual Meeting of Japanese Society for Neuroinfectious Diseases

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/46699">http://hdl.handle.net/2297/46699</a>

## 『学会開催報告』

第21回日本神経感染症学会  
総会・学術大会The 21st Annual Meeting of Japanese  
Society for Neuroinfectious Diseases金沢大学医薬保健研究域医学系 脳老化・神経病態学  
(神経内科学)

山田正仁

平成28年10月21日～22日の2日間、金沢東急ホテルにて、第21回日本神経感染症学会総会・学術大会(会長:山田正仁)を開催いたしました。翌日の10月23日が「金沢マラソン2016」であり、宿不足を懸念しておりましたが、280名の参加を得て、盛会裏に終えることができました。

今学術大会は、「神経感染症の分子病態解明と治療法開発の新展開」をテーマに、基礎研究から臨床研究、症例報告まで幅広い内容について取り上げることができました。会長講演では山田が「医原性Creutzfeldt-Jakob病におけるプリオン及びプリオン様タンパク質の伝播」について講演し、特別講演では理化学研究所の田中元雅先生が「プリオン様タンパク質の感染性の本体とその生成分子機構の解明」について講演されました。

また、4つのシンポジウムを開催し、シンポジウム1「進行性多巣性白質脳症の診断・治療の新展開」では、宍戸原由紀子先生(東京医科大学)に「PMLの分子病態と病理」、中道一生先生(国立感染症研究所)に「JCウイルス感染の実態と検出法」、三浦義治先生(東京都立駒込病院)に「PMLの診断と治療」、雪竹基弘先生(佐賀中部病院)に「薬剤関連PML最近の話題」についてそれぞれ講演して頂きました。シンポジウム2「感染因子による神経免疫疾患誘発のメカニズムと治療」では、角田郁生先生(近畿大学)に「ウイルス感染によって誘発される炎症性脱髄と軸索変性のメカニズム」、古賀道明先生(山口大学)に「ギラン・バレー症候群における先行感染:その臨床的意義」、岩佐和夫先生(金沢大学)に「感染症と重症筋無力症」について講演して頂きました。シンポジウム3「小児急性脳症の分子病態と診断・治療」では、石崎義人先生(九州大学)に「熱性けいれん」、齋藤真木子先生(東京大学)に「けいれん重責型(二相性)急性脳症の病因・病態」、佐久間啓先生(東京都医学総合研究所)に「難治頻回部分発作重積型急性脳炎」について講演して頂きました。シンポジウム4「非ヘルペス辺縁系脳炎の分子病態解明と治療法開発」では、高橋幸利先生(静岡てんかん・神経医療センター)に「非ヘルペス辺縁系脳炎の分子病態」、高嶋博先生(鹿児島大学)に「日常診療でみられる自己免疫脳症の診断と治療」、海田賢一先生(防衛医科大学校)に「リツキシマブによる非ヘルペス辺縁系脳炎の治療」について講演して頂きました。

さらに、最近特に話題となっている3つのテーマをホットトピックスとして取り上げ、ホットトピック1では、忽那賢志先生(国立国際医療研究センター病院)には「ジカ熱とデング熱」を、ホットトピック2では、吉良龍太郎先生(福岡市立こども病院)に「小児の急性弛緩性脊髄炎」を、ホットトピック3では、Robert P. Friedland先生(University of Louisville, USA)に「The role of the microbiota in neurodegenerative disorders」を講演して頂きました。

教育的な企画としては、「1日でわかる神経感染症 - 神経感染症の基礎から最新情報まで」と題して7つの教育セミナーを行い、倉田毅先生(国際医療福祉大学塩谷病院)に「人神経系でみられるウイルス感染症」、亀井聡先生(日本大学)に「中枢神経系の細菌感染症」、中嶋秀人先生(大阪医科大学)に「結核性髄膜炎の診断と治療」、大西健児先生(荏原病院)に「寄生虫による成人の中枢神経系感染症」、浜口毅先生(金沢大学)に「プリオン病」、岸田修二先生(初石病院)に「抗レトロウイルス療法中のHIV神経合併症」、菊池陽一先生(亀田総合病院)に「神経感染症の画像診断: Case-based Review」を講演して頂きました。

一般演題も68演題を数え、多くの医師および研究者に日頃の成果を発表して頂きました。一般演題では、なかなか経験出来ない神経感染症の症例についての貴重な症例報告が多数含まれており、活発な議論が交わされました。また、ホットな研究テーマに関する基礎・臨床研究に関する演題も数多く発表されました。その中で、学会理事による投票で、特に優秀であった認められた演題については、基礎・臨床研究部門と症例報告部門とに1演題ずつに学会賞が授与されました。また、研修医や学生による発表で優秀であった1演題について会長賞が授与されました。

2日間にわたって活発に議論して頂き、参加して頂いた先生方の記憶に残る素晴らしい学術集会となったものと自負しています。本学会の開催にあたりましては、神経内科同門の先生方をはじめ、十全医学会会員諸氏のご支援を頂きました。深謝いたします。

